

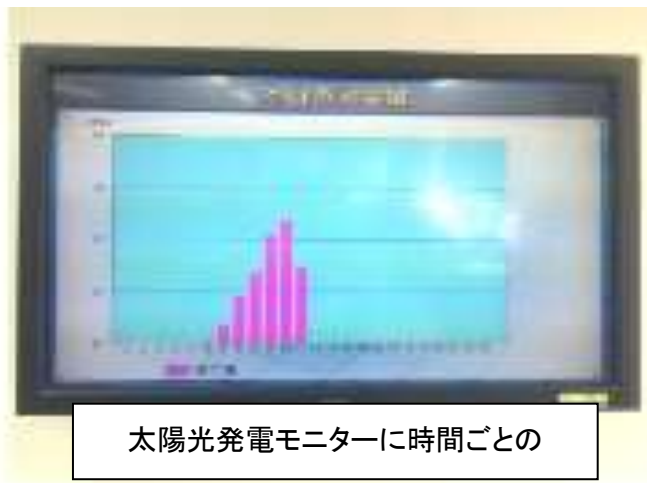
V-6.環境目標の実績-平成28年度活動内容(1)

(1)太陽光発電システムによる自然再生エネルギーの活用(売電実績・設備償却管理)

三菱電機製 太陽光発電システムを導入し、2013年11月6日より発電(売電)開始しました。
 予定年間発電力量は32,557KWh/年で、二酸化炭素削減量に換算すると-15,106Kg-CO2/年に相当します。



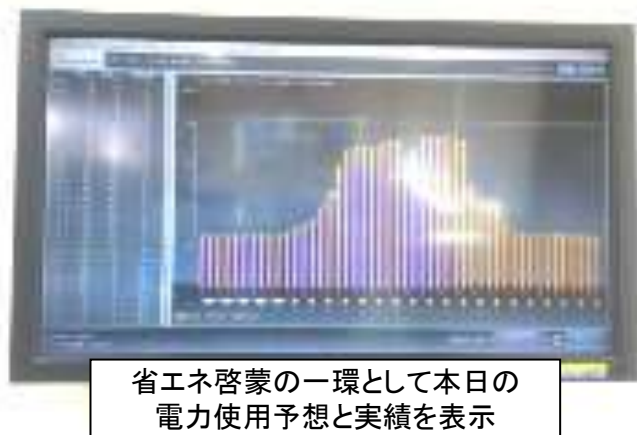
工場社屋に設置したソーラーパネル



太陽光発電モニターに時間ごとの



太陽光発電モニターに現在と本日の



省エネ啓蒙の一環として本日の
電力使用予想と実績を表示

年間実績評価(月毎に、発電量(売電量と売電金額)を集計し、売電金額による設備投資の回収率を把握する。)

達成率 113.9%	設備投資回収率 44.4%	目標/年 32,557 kwh	実績/年 37,089 kwh
-------------------	----------------------	------------------------	------------------------

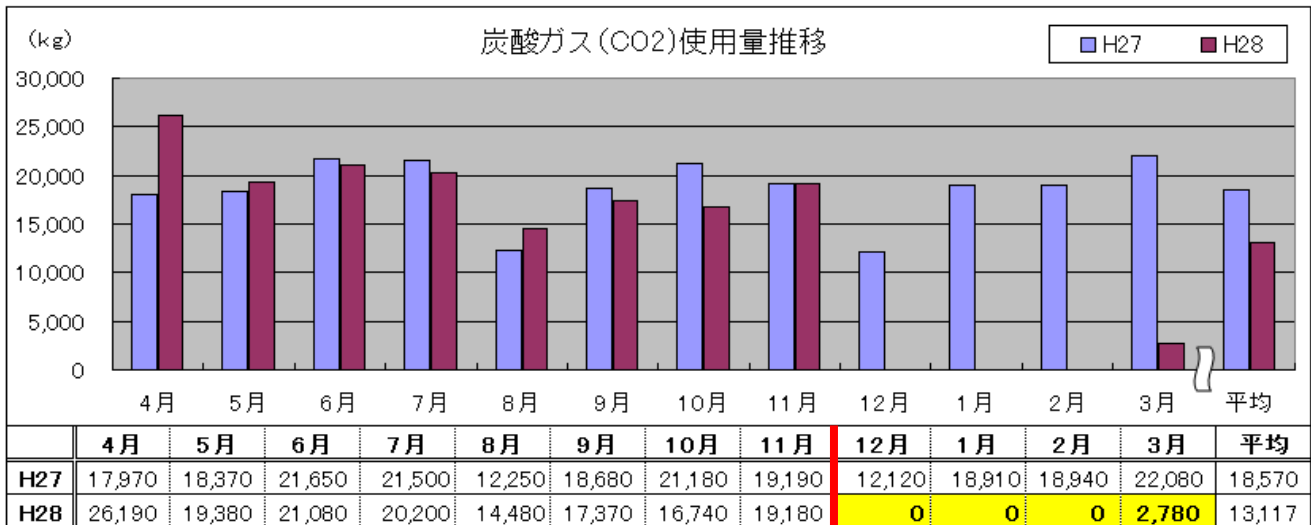
※設備投資回収率:平成28年度3月までの売電金額の累計総額計算

5.000 _____ **平成28年度 発電目標113.9%で達成！ 18.396kg-CO2相当の温室効果ガス削減！**

V-6.環境目標の実績-平成27年度活動内容(2)

(2) CO2を使わない生産体制を構築(代替窒素を生成するN2発生装置の導入)で社会に貢献

当社は、LP(LPG)、酸素(O2)、炭酸(CO2)を使用し、銅管等の部品と部品をろう付けした製品を製造している。今年度、窒素(N2)発生装置を導入し、炭酸(CO2)の代替として使用することで大幅な削減が出来るようになった。



H28/4月～11月の平均使用量
1,9328kg/月

窒素(N2)発生装置
12月より稼動

H27/4月～3月までに平均使用量
695kg/月

-18,633kg/月削減



CE(コールドエバポレータ)

気化装置

←導入前

CE(コールドエバポレータ)内の液化炭酸が
気化装置で気体にして工場内に供給

導入後→

窒素(N2)発生装置を導入し、
一部客先指定以外は窒素(N2)に置換



PSA(窒素N2発生装置)

PSA用コンプレッサー

V-6.環境目標の実績-平成28年度活動内容(4)

(4)産業廃棄物処理の分別状況の視察(2016.9.21水)

銅くず、鉄くず等の収集運搬をおこなっている(株)ニッソーの運搬、仕分け処理の実情を視察と話を聞くことにより今後の分別、管理の推進、改善の参考としました。



許可証表示



当社が出した銅管と処理作業(切断と分別)



銅管のみの場合、上銅として分別される



明確な分別表示



銅、アルミ、その他混在された廃棄物



銅のみは上銅、ろう材など別のものが混在すると売価も下がる(写真は90%銅)

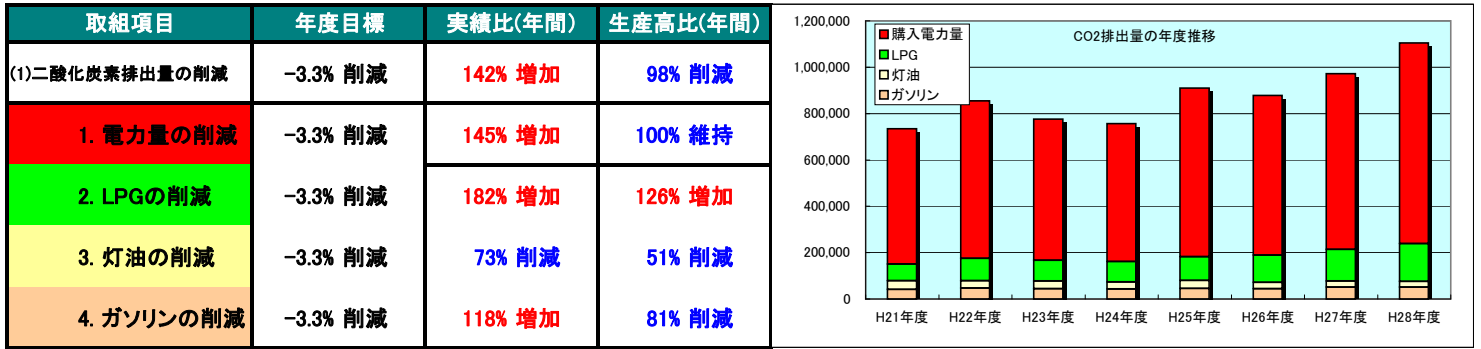


アルミ材のみは圧縮固体化



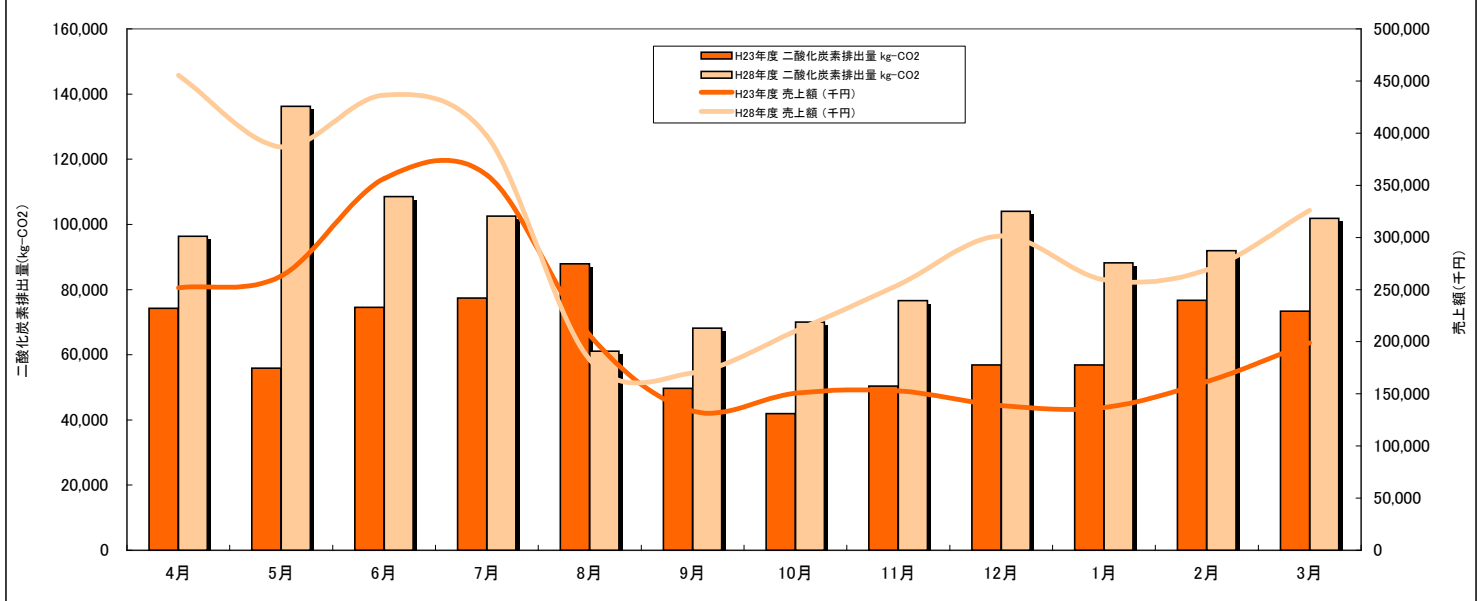
100%のアルミ箔、アルミ缶も圧縮固体化

VI-1.環境活動計画の取組結果とその評価 1/4



二酸化炭素排出量の基準年度との比較

年度	項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H23年度	二酸化炭素排出量	kg-CO2	74,259	55,865	74,568	77,410	87,955	49,688	41,948	50,372	56,855	56,846	76,683	73,376	775,826
H28年度	二酸化炭素排出量	kg-CO2	96,356	136,233	108,551	102,513	61,057	68,171	69,992	76,572	103,974	88,184	91,948	101,825	1,105,374
H23年度	売上額	(千円)	251,547	263,101	356,272	359,838	206,295	133,659	150,558	152,838	138,699	136,801	161,880	199,017	2,510,504
H28年度	売上額	(千円)	455,413	386,705	436,312	397,212	182,486	170,124	210,241	254,324	301,473	259,396	269,029	325,993	3,648,707
二酸化炭素排出量の削減(基準年度比)			130%	244%	146%	132%	69%	137%	167%	152%	183%	155%	120%	139%	142%
売上額比(基準年度比)			181%	147%	122%	110%	88%	127%	140%	166%	217%	190%	166%	164%	145%



今年度の生産と排出動向

基準年度(平成23年)と比較すると、売上は145%に対して、二酸化炭素排出量(以下Co2排出量)は142%の増加に抑えることができた。本年度の特徴として、例年生産量が減少する9月頃から年度末にかけて、生産が維持増加したことで、基準年度(平成23年実績)に対する生産高比(年間)で-2%削減できた。特に冷暖房機器を使用しなくなる3~4月、10~11月、繁忙時期の6~7月は、売上額がCo2排出量を上回ることができた。一方、GW等で稼働日が少なく、残業等で生産対応を行なった5月、夏前生産後の8~9月、暖房機器の使用と年末年始で稼働日が少なく、残業等で生産対応を行った12~1月は、排出量が抑制できなかったが、大幅に上回る月はなかった。

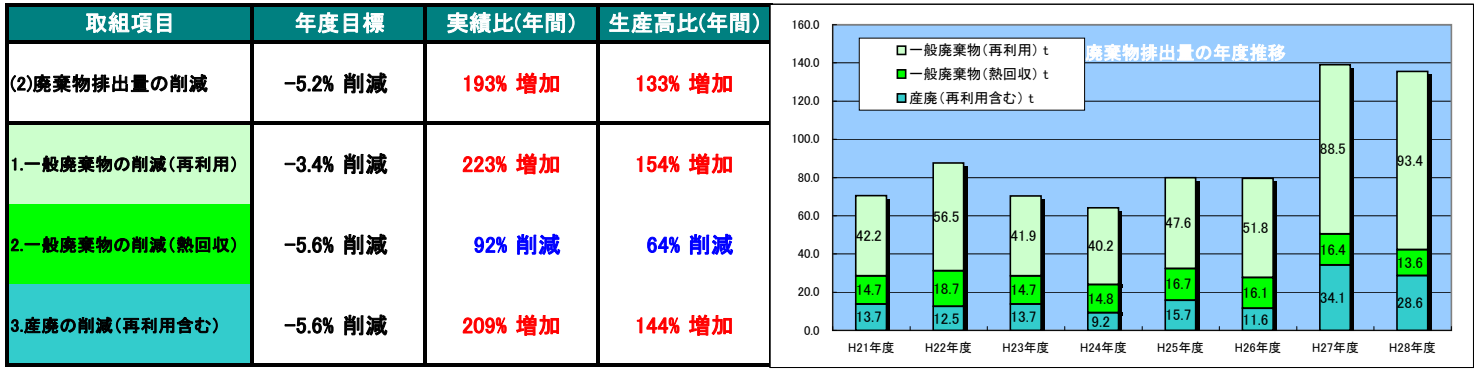
現在までの取組結果

<継続的な取組>
「電力使用量削減」に関しては、照明器具劣化・破損で交換の際、省エネ型(LED照明)導入の推進。工場内水銀灯の使用は原則、禁止とした。また契約電力維持の為、旧型エアコン4台入替、エアコン使用量の多い夏季にデマンド管理の手法として構内放送による節電の呼びかけを強化した。「LPG」に関しては、使用量の多い設備(ロウ付機)の停止中のムダ火(待機中の火力削減)改善に取り組んだ。「ガソリン」に関しては、環境省の推薦するエコドライブの啓蒙活動の為、宣伝ポスターをインターネットでダウンロードし、食堂・会議室などに掲示した。

<結果>
二酸化炭素排出量 実績比 142%(増加) 生産高比 98%(減少)
目標値(-3.3%)未達成だったが、生産高比-2%減

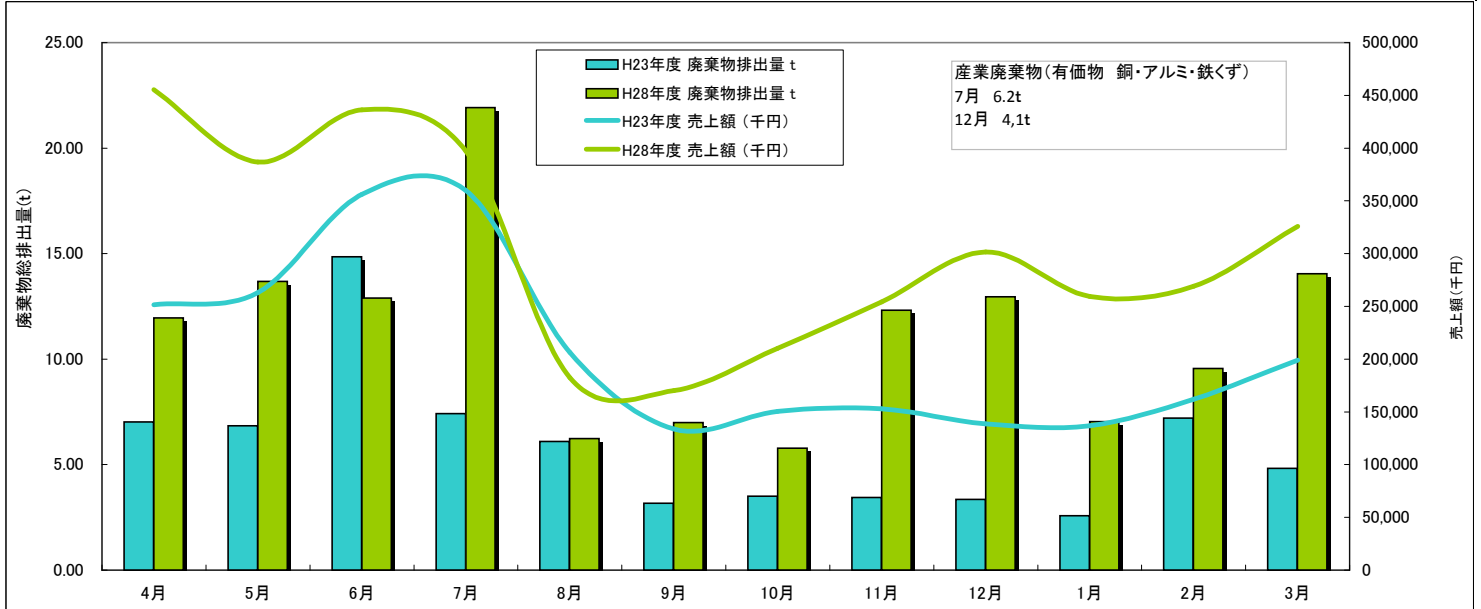
評価	生産変動と投入人員の調整が難しい中、実績値では増加し、目標値は未達成であったが、生産高比では削減できた。今年度の生産高(売上高)は45%増加したが、購入電力は-2%と削減することができ、全社的な環境活動の取組の成果と実感する。組施策として、電力使用量の多い旧型エアコン4台を入れ替えた。一方、電力使用量の主要因のエアークOMPレッサ-を省エネ(インバーター)タイプに今後変更していきたい。	検印
○		技術 29.04.11 藤澤

VI-2.環境活動計画の取組結果とその評価 2/4



廃棄物排出量の基準年度との比較

年度(西暦)	項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H23年度	廃棄物排出量	t	7.02	6.85	14.85	7.42	6.09	3.17	3.50	3.45	3.35	2.58	7.20	4.82	70.3
H28年度	廃棄物排出量	t	11.96	13.69	12.89	21.92	6.24	6.99	5.78	12.32	12.95	7.04	9.56	14.05	135.4
H23年度	売上額	(千円)	251,547	263,101	356,272	359,838	206,295	133,659	150,558	152,838	138,699	136,801	161,880	199,017	2,510,504
H28年度	売上額	(千円)	455,413	386,705	436,312	397,212	182,486	170,124	210,241	254,324	301,473	259,396	269,029	325,993	3,648,707
廃棄物総排出量の削減(基準年度比)			170%	200%	87%	295%	102%	221%	165%	357%	387%	273%	133%	292%	193%
売上額比(基準年度比)			181%	147%	122%	110%	88%	127%	140%	166%	217%	190%	166%	164%	145%



今年度の生産と排出動向

一般廃棄物(再利用)の主である段ボールは昨年以上に生産量が多い為、増加している。社内流通用として活用しているが、最終的には廃棄物となる。
 一般廃棄物(熱回収)の主である梱包用のビニール袋も昨年以上の生産増によって増加している。ダンボール同様に社内活用し、廃棄削減をしている。
 産業廃棄物に関しては、平成28年度は、28年5月16日、7月29日、10月5日、11月11日、12月26日、29年2月17日、3月16日に処分をしている。
 今期、老朽化設備と過年度製品のサービス部品の在庫量見直しで7月に金属10.4tonを廃棄した。

現在までの取組結果

<取組>

- ・特定化学物質「トリクロロエチレン」の再生利用(再生業者との直接取引)の実施と全廃検討及び炭化水素洗浄液の再生利用の実施。
- ・構内環境浄化推進の為、工場内完全禁煙！毎月の全体朝礼後構内・外の美化清掃の実施。
- ・産業廃棄物(再利用)の中で磨耗や劣化した器具類をそのまま廃棄していたものを各職場から回収し再加工し再利用。(昨年より継続)
- ・使用済み一般廃棄物(ダンボール箱・ビニール袋)の社内再利用の強化！社内在庫品(試作品・サービス部品)の保存梱包に使用。(昨年より継続)
- ・分別廃棄・収集方法・再利用の施策「異種金属接合品(アルミ・銅合金品、真鍮・銅ロウ付品etc.)の分別廃棄の強化！」(継続)
- ・各職場別一般廃棄物・産業廃棄物(銅くず)の廃棄量の計量・記帳、毎週の役職朝会にて廃却重量と金額の原因分析結果を報告し啓蒙。(継続)

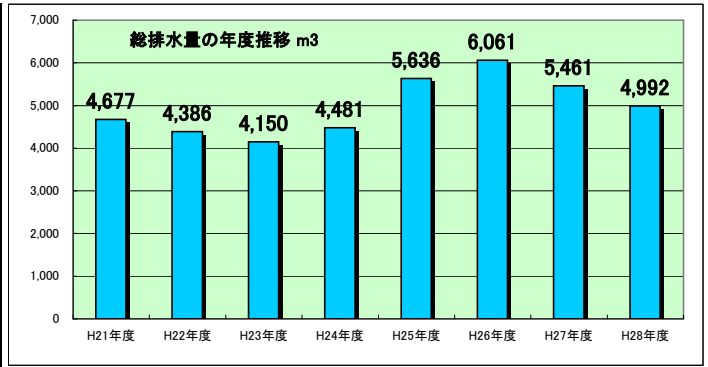
<結果>

廃棄物排出量 実績比 193%増加 生産高比 133%増加 目標値未達成

評価	内容	検印
△	段ボール箱、ビニール袋は、工場内の各課(職場)への通い箱、通い袋としての使用が社員に浸透してきている。 廃棄する場合の報・連・相の徹底、記録の徹底、廃棄処理のルール化が見える化して無駄な廃棄を無くし、再資源化を推進する。 原材料の銅管の廃棄量は、毎週各職場別に集計し、報告、掲示しているがまだ不透明感がある。投入・排出量の精度を高めたい。	技術 29.04.11 藤澤

VI-3.環境活動計画の取組結果その評価 3/4

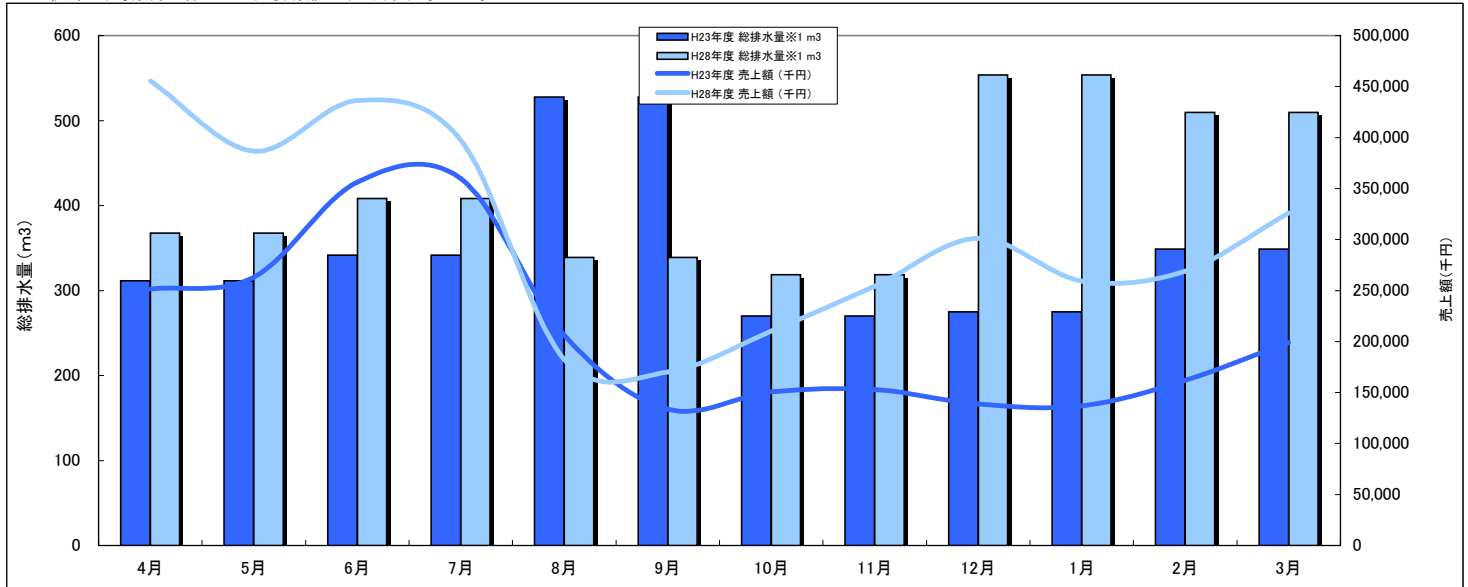
取組項目	年度目標	実績比(年間)	生産高比(年間)
(3)総排水量の削減	-3.4% 削減	120% 増加	83% 減少
1. 水道水の節水	-3.4% 削減	120% 増加	83% 減少
2. トイレの節水	-3.4% 削減	120% 増加	83% 減少
3. 工業用水の節水	-3.4% 削減	120% 増加	83% 減少



総排水量の基準年度との比較

年度(西暦)	項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計※
H23年度	総排水量※1	m³	312	312	342	342	528	528	270	270	275	275	349	349	4,150
H28年度	総排水量※1	m³	368	368	408	408	339	339	319	319	554	554	510	510	4,992
H23年度	売上額	(千円)	251,547	263,101	356,271	359,837	206,295	133,628	150,557	152,837	138,698	136,801	161,879	199,016	2,510,467
H28年度	売上額	(千円)	455,413	386,705	436,312	397,212	182,486	170,124	210,241	254,324	301,473	259,396	269,029	325,993	3,648,707
総排水量の削減(基準年度比)			118%	118%	119%	119%	64%	64%	118%	118%	201%	201%	146%	146%	120%
売上額比(基準年度比)			181%	147%	122%	110%	88%	127%	140%	166%	217%	190%	166%	164%	145%

※1 検針は、奇数月に行っている為、数値は、2ヶ月平均とした。



今年度の生産と排出動向

弊社の水の使用量は、従業員の手洗い、トイレの洗浄などの生活用水が主であり、従業員総数と比例する。

今年度も例年以上の生産増があり、季節従業員の雇用数や稼働時間も増大する中、一昨年からの節水の呼びかけと夏場の小まめの給水(水分補給)施策が功を奏し、通年を通しての排水量の抑制が出来たことは評価できる。

しかし、冬の12月と2月に凍結による水道管破裂と、工事場所の土煙に対する近隣住民への配慮で水散布等により12~3月は大幅に上昇してしまった。

現在までの取組結果

<取組>

- ・「節水呼びかけ表示」による、節水の啓蒙活動の続行と朝礼(朝会)での伝達の強化
- ・屋外水道箇所へ凍結防止栓の取付
- ・設備冷却水の漏洩、休日等のバルブの閉め忘れチェックの推進
- ・トイレの手洗い場のコックの締め忘れ、漏洩のゼロ化の強化
- ・水道料金のチェック(昨年度と月別比較)による変化点の調査

<結果>

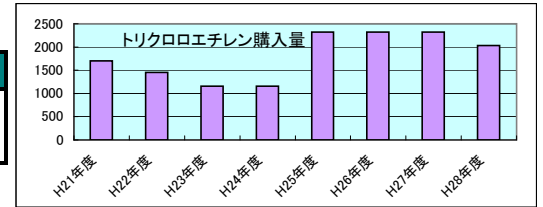
総排水量 実績比 **120%(増加)** 生産高比 **83%(減少)** 目標値(-3.4%)達成

評価	昨年年度比、生産量(売上高)は45%増に対して、総排水量は-9.6%減少している。基準年度比目標に対しても大幅に達成できた。	検印
○	昨年以上の生産増により、投入人員も増えた中、派遣社員、アルバイトの方々へのPRがうまく浸透できた。 厳冬の12月、2月に凍結による水道管が破裂、毎年起きる可能性があるため、配管の保温性と凍結防止対策を検討していく。	

VI-4.環境活動計画の取組結果その評価 4/4

(4) 化学物質の削減

取組項目	年度目標	実績比(年間)	生産高比(年間)
1. トリクレン洗浄の削減	-2.2% 削減	175% 増加	121% 増加



今年度の生産と使用動向

購入量は、前年比12.5%減っている。売上は、26.4億円(H25)→28.6億円(H26)→34.8億円(H27)→36.5億円(H28)と増加しているが、原単位で比較すると、87.9kg/億円(H25)→81.1kg/億円(H26)→66.7kg/億円(H27)→55.6kg/億円(H28)と減少している。

現在までの取組結果

＜取組＞	購入量の削減—廃液の再生(4月より実施)、排出量の抑制—トリクレン洗浄品の削減
＜結果＞	トリクレン購入量 実績比 175%(増加) 生産高比 121%(増加) 目標値未達

評価	△ トリクレンは今年度5月より、 廃液を再生及び再生したトリクレンの購入を開始した。 (新規購入量の抑制の為) 新規事業製品の洗浄に使用している 炭化水素も廃液を再生及び再生したトリクレンの購入を開始した。 (新規購入量の抑制の為) 次年度から、 洗浄液「トリクレン」完全撤廃 に向けて、諦めることなく会社全体で知恵を出し合い取り組んでいく。	検印 技術 29.04.13 藤澤
----	--	----------------------------

(5) グリーン調達

取組項目	年度目標	実績比(年間)
1. 調達機器・資材のグリーン調達推進	29 品目	27 品目



今年度の生産と調達動向

「**消耗品費節約**」の経営方針の中、年度目標クリアに至っていない。**エコマーク・グリーンマーク商品**は、価格的に一般品に比較して安くは無く、生産が増加し、消耗品も多くなる中、**節約**の二文字が重くのしかかっている。

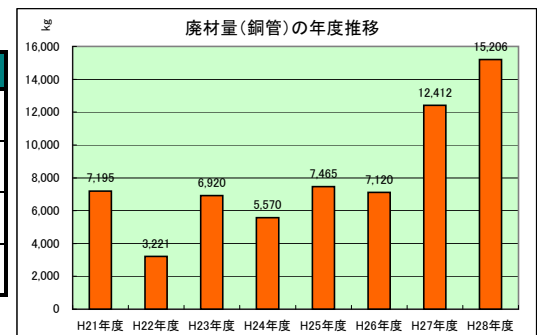
現在までの取組結果

＜取組＞	事務用品、工具等の標準購入品は、 商社及びインターネットの価格を比較し、「安く、安心・安全な商品」の発掘に努めている。
＜結果＞	グリーン購入 27品目 目標値未達成

評価	△ 生産量増加と消耗品増加は比例関係にあり、製品の コスト削減にも直接影響がある為、購入品決定には慎重な判断が必要となる。 事務用品、工具等の標準購入品で、 価格が同等の場合は、リサイクル商品を優先的に購入していく。	検印 技術 29.04.13 藤澤
----	---	----------------------------

(6) 自らが生産・提供する製品及びサービスに関する環境配慮

取組項目	年度目標	実績比(年間)	生産高比(年間)
1. 廃材料(銅材)の削減	-6.2% 削減	220% 増加	124% 増加
2. 環境CSR対応	CSRの啓蒙活動の推進 インターンシップ等での会社取組のPR		
3. 工場敷地内及び周辺清掃・緑化推進活動	毎月の全体朝礼後、構内・外の美化清掃の実施		
4. 職場環境改善の推進(工場内完全禁煙)	工場内完全禁煙の徹底 工場内パトロール		



今年度の生産と取組動向

今年は、**昨年以上に銅管の廃棄量が上回っている。(年7回廃棄)** これは**過年度製品のサービス部品の在庫量見直しで整理、廃却**を数回に渡って行った為です。また**先行生産**もあり、製品(仕掛品含む)置場の空スペースが少なくなってきた為、**不要在庫の処分**も行った。

現在までの取組結果

＜取組＞	銅管の 廃棄置場の5S及び見える化 工場構内・外の 美化清掃 による地域貢献 工場内 完全禁煙 推進と社内パトロールによる CSR評価
＜結果＞	廃材料(銅管)の削減 実績比 220%(増加) 生産高比 124%(増加) 目標値未達成

評価	△ 銅管の廃棄量削減は未達成 であったが、社内 在庫置場の5S及び不要在庫の一掃 が出来て、空スペースも確保出来た。 環境保全対応も少しずつ 成果が見え始め 、中・高生、支援学校の インターンシップの受け入れ も毎年実施出来ている。 屋外ごみ箱の ゴミ分別は不完全 なため、今後も地道に指導していく。工場内の 完全禁煙 は定着、新人への啓蒙も継続していく。	検印 技術 29.04.13 藤澤
----	--	----------------------------

VI-5 次年度の取組内容(平成29年度 環境活動計画)

平成29年度(H29年4月～H30年3月) エコアクション21 年間活動計画

月毎の実績評価: ●→100～81%、▲→80～51%、■←50%以下)

統括責任者	管理責任者	作成者
		

取組項目		・推進担当職場 ・推進担当者	スケジュール												
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
(1) 二酸化炭素排出量の3.3%削減															
1 電力使用量 3.3%削減	1	省エネ補助金によるコンプレッサー導入 (エネルギー使用合理化等事業者支援事業)	生産管理課 金子T	補助金交付申請に向け内容調査と申請の実施			コンプレッサーメーカーとの仕様検討			11月導入の為の設置場所周辺整備			導入後の稼動状況チェックと実績の評価		
	2	古いエアコンの廃棄推進の継続 (GHP-LPG使用エアコンの検討)	技術部 藤澤部長	GHPエアコンの導入の為の市場況調査			メーカーに見積り依頼(社内調査の実施)						見積りの金額の検討と評価 実績の評価		
	3	窒素発生装置の活用 (炭酸ガス使用の0化の実現)	技術部 藤澤部長	炭酸ガスから窒素ガスへの変更(4M変更)の客先への申請と早期承認のフォロー			承認決定後、窒素発生装置稼動			稼動状況チェックと問題点の把握			実績の評価		
2 LPG使用量 3.3%削減	4	補助金活用の自動ロウ付機の導入 (自立化支援対策補助金の申請)	製造部 渡辺工場長	補助金交付申請に向け内容調査と申請の実施			ロウ付機製造メーカーとの仕様検討			11月導入の為の設置場所周辺整備			導入後の稼動状況チェックと実績の評価		
3 灯油・ガソリン使用量 3.3%削減	5	社員への啓蒙活動の更なる推進 (省エネ運転の推進)	生産管理課 金子T	ポスター等を活用した啓蒙活動実施			社用車の買い替え検討と実施(エコ車購入の為データ収集)			社用車買い替え実施			導入後の稼動状況チェックと実績の評価		
(2) 廃棄物排出量の5.2%削減															
3Rの推進	1	端材の廃棄分別化の廃棄物削減推進 (リデュース)	生産管理課 小沼T	期間社員(パート・アルバイトetc.)への分別廃棄の啓蒙強化を図る			現状把握と問題点の見える化			生産管理にて検討会議(今後の課題と対策)			実績の評価		
	2	死蔵品(治具・工具)の再利用の推進 (リユース)	技術部 大久保T	各職場の治・工具の棚卸し実施(不用品の回収)工作室にて再利用			古い治・工具を工作室でばらして再利用開始			再利用治・工具の使用状況確認			実績の評価		
	3	廃棄物(設備)の再資源化の推進 (リサイクル)	生産管理課 金子T	今年度廃棄予定の設備及び修理可能な設備の洗い出し(設備メーカーと打ち合わせ)			修理可能な設備の整備実施			来年度に向けた取り組み検討			実績の評価		
(3) 排水量の3.4%削減															
排水量削減 (節水)	1	節水(不凍コマの設置推進)	生産管理課 小沼T	昨年に凍結の為、蛇口が破損し水漏れした経緯を踏まえ不凍コマ設置検討			不凍コマの市場調査			破損危険箇所に試験設置と他の手洗い場への導入実施			実績の評価		
	2	トイレの節水(啓蒙活動の強化)	生産管理課 金子T	北側男子トイレを手動式に変更、実施後の使用状況チェック			使用者へのヒヤリング			便器消臭用芳香玉を定期的実施			実績の評価		
	3	給水塔のメンテナンスの実施	技術課 藤澤部長	トイレ用給水塔の使用状況と問題点把握(過去発生したトラブル等の内容)の調査			配管業者に点検見積りと不良箇所点検依頼			実施検討(相見積もりetc.)			実績の評価		
(4) 化学物質使用量の2.2%削減															
トリクレンの削減	1	トリクロロエチレン完全撤廃計画	技術部 藤澤部長	トリクレン廃止に向けた問題点の洗い出し			トリクレン使用状況のチェック(洗浄品の内容)			データ解析 問題点把握検討会実施			別洗浄での洗浄試験の実施 実績の評価		
	2	炭化水素洗浄液の再生利用実施	製造部 渡辺工場長	炭化水素再生品の洗浄状況確認(脱脂状態)			再生品の交換時期(再生委託業者)に確認			再生品使用、経過観察			実績の評価		
(5) グリーン購入と消耗品の節約															
グリーン購入と節約	1	工場内照明LED化の推進	生産管理課 鈴木室長	LED照明の市場調査実施(価格及び省エネ性)			工場内でのLED照明設置場所の検討			業者への見積りの実施			実績の評価		
	2	グリーン購入品の購入の継続と強化	EA事務局 金子担当	インターネット及び購入業者へのグリーン購入品の再調査			検討会議			購入先決定に向け相見積り依頼実施			サンプル品による確認 実績の評価		
(6) 自らが生産・提供する製品及びサービスに関する環境配慮 6.2%削減															
社長が取り上げた 環境負荷の削減	1	エア使用量削減(Co2削減)の強化 省エネ設備導入の導入推進	生産管理課 金子T	工場内エア漏れの対策と配管ルートの見直し推進(各職場のエア圧力変動調査)			エア漏れ、ガス漏れの配管調査と修理実施						実績の評価		
	2	環境CSR対応	統括責任者 佐野社長	①昨年度より継続実施(6月環境月間啓蒙活動、8月富士根中、富岳館高校、9月吉原工業高生のインターンシップの継続10月養護学校生徒受け入れ) ②工場外の駐車場の夜間一般開放											
	3	職場環境改善(ゴミ分別の強化) 工場敷地内外の清掃・緑化活動推進	製造部 渡辺工場長	①昨年度より継続実施(フレッシュ広場の整備、廃棄物置場のレイアウト改善、一般ごみの分別推進の継続、工場内ペンキ塗り実施) ②社員用駐車場の新設と整備											
環境管理責任者 検印			取締役 技術部長												
統括責任者 検印			取締役 社長												

VII. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規等の遵守状況

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

点検日
H29.5.11
点検者
技術 29.05.11 藤澤

法規・条例・規制	適用内容又は規制基準値	備考	遵守状況	届出等確認日
廃棄物処理法	* 保管施設の表示と保管基準の遵守	表示板(60cmx60cm)	○	-
	* 収集運搬業者及び処分業者との委託契約	契約書		-
	* 委託契約書の保管	5年間		-
	* マニフェストの管理	5年間		-
	* マニフェストの交付状況報告	年1回		H28.7.4届出
静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例	事業者は、その産業廃棄物の運搬又は処分を業者に委託する時は当該委託に係る施設の状況その他で定める事項を実地に確認しなければならない。	年1回以上	○	(株)ニットー < 産業廃棄物処理業者 > H28.9.21確認
水質汚濁防止法	* 工場廃水の水質検査	月1回 自主検査	○	-
	* 適用される排出基準の遵守	市の立入検査 県の立入検査		H28.11.25検査 H29.1.12検査
	* 水質汚濁防止法に係る特定施設移動届出書	県への提出		H22.7.26届出
騒音規制法	* 適用される騒音基準の遵守	エアコンプレッサ 5台	○	H28.11.15届出
振動規制法	* 適用される振動基準の遵守	エアコンプレッサ 5台	○	H28.11.15届出
PRTR法	* 環境省への情報公開の遵守	年1回	○	H28.6.30届出
フロン排出抑制法	* 適用される全ての第一種特定製品の点検・記録・報告の遵守	(業務用の空調機器) 簡易点検: 全て 定期点検: 7.5kW以上	○	-
関連法規	① 家電リサイクル法・パソコンリサイクル法	社有家電、OAパソコンなど	○	-
	② 自動車リサイクル法	社有車 社内エアコンのガス漏れ		-
労働安全衛生法	* トリクレン洗浄時の安全基準の遵守	防具着用	○	-
	* 社員の健康診断の実施	健康診断 (年1回)		H28.9.13実施
消防法	* 適用される消防基準の遵守	炭化水素洗浄装置 導入時に所轄消防署に届出	○	H9.12.2届出

2. 訴訟等の有無

関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありませんでした。

3. その他の規制

- * ROHS規制 : 製造製品に対して以下6品目の不含有の遵守
不含有確認対象品目
自給銅管材料・自給ストレナーロー材
マーキング用ペイントマーカー
※原則的に客先指定図面の支給部品に関しては客先にて確認

カドミウム・六価クロム・水銀・鉛
ポリプロモビフェニル
ポリプロモジフェニルエーテル
- * REACH規則 : 自社調達納入資材すべての含有化学物質の客先への情報伝達の遵守
- * MSDS : 化学物質等の安全データシート把握とデータ収集(トリクレン)
- * グリーン購入法 : 国、独立行政法人及び地方公共団体による環境物品等の調達の推進、情報の提供

VIII.代表者による全体評価と見直しの結果

活動期間：平成28年度（平成28年4月～平成29年3月まで）

環境管理責任者	検印
藤澤 尚朗	技術 29.05.25 藤澤

1.環境活動の取組のチェック

項目	チェック	必要に応じて評価・コメントを記入
① エコアクション21文書の作成と保管と整理	<input checked="" type="checkbox"/>	2017年度版 環境活動レポートの作成。 環境活動の取組・負荷の自己チェック表の作成。
② 環境方針・環境目標及び目標達成状況の確認	<input checked="" type="checkbox"/>	2009年度版のガイドラインに沿った環境方針・目標を策定した。 平成23年度を基準年度とし、環境目標を設定した。 ⇒平成23年より継続中
③ 環境活動計画及び取り組み実施状況の確認	<input checked="" type="checkbox"/>	生産途中で発生する銅管の廃棄物について、 各職場ごとに廃棄量を測定し、発生原因を突き止める取組み を展開している。
④ 教育・訓練の実施状況	<input checked="" type="checkbox"/>	ゴミの分別や役員が率先してアイデアを出し、 社員に環境活動を積極的に推進していた。
⑤ 環境関連法規遵守状況	<input checked="" type="checkbox"/>	関係省庁への報告や廃棄物・特定化学物質の管理を 徹底して行い、適法に努めた。
⑥ 外部コミュニケーション・対応記録	<input checked="" type="checkbox"/>	地域の中・高校生の見学やインターシップを通じ、 事業内容と環境活動の取り組みをPR。
⑦ 問題点の是正・予防措置の実施状況	<input checked="" type="checkbox"/>	なし
⑧ ROSH・REACH規制対応	<input checked="" type="checkbox"/>	客先より要請のある、欧州環境規制に対応。 製品の規制物質の含有確認を実施 ⇒継続中

統括責任者	検印
佐野 勝俊	社長 29.05.25 佐野

2.統括責任者による環境経営システムの見直し

項目	見直し	見直し事項等
① 環境方針	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	2015年4月1日に見直し改定。
② 環境目標・計画	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	策定した目標に対し取り組みを続ける。
③ 環境活動計画・取組項目	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	銅管の廃棄量について状況を把握し改善点を模索していく。
④ 環境関連法規対応	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	フロン回収・破壊法→フロン排出抑制法(2015年4月施行) 見直し改定。

全体評価「総括」

本年度は主要取引先である三菱電機様の大幅生産数増により、過去最大の売上げとなった。
しかしながら、過去最大の売上＝銅管廃棄量の増加という側面もあるが、廃棄物の発生原因を分析、改善していきたい。
また、大電力使用量の大きいコンプレッサーの入替や省エネ自動機等も検討していきたい。
次年度もサービス部品の在庫量の見直しを行い、空スペースの確保も進めていく。
長年の懸案事項である、トリクロロエチレンの全廃に関しては、「検討第1年」として積極的にアプローチしていく。